



校庭の木々もすっかり色づき
11月上旬には見ごろを迎えました
青空の下 秋のめいっぱいの勢いを感じます

～児童会選挙 まっただ中～

令和5年度に向けた児童会選挙の投票日が、いよいよ近づいてきました。すでに選挙管理委員会を中心に取組はスタートしており、廊下には立候補者のポスターが掲示されたり、学級訪問に出向いたり、今月は「選挙月間」となっています。

3年生から6年生までの22名の選挙管理委員会メンバーは、休み時間に集まっては選挙事務に勤しんでおり、選挙が



つつがなく進むように活動全体を支えています。どんな活動でもそうですが、必ず**縁の下の力持ち**がその活動を支えています。今回もその力は大きく、**学校の支え**となっています。

そして、ドキドキしながら毎日を送っている9名の立候補者。立候補に至るまでには、大きな**葛藤と覚悟**があったことと思います。それでも、最後は「挑戦したい！」「こんな学校にしたい！」と**未来の北小**を思い描き、希望に胸膨らませ、自らの「したい！」を原動力に挑戦していることでしょう。

また、各立候補者を支える責任者や応援者、クラスの仲間の存在も大きく、立候補

者の支えであり、安心できる拠り所となっています。クラス全体のバックアップ体制にも温かさや力強さがあります。

大人の世界では、来年1月の県知事選を皮切りに統一地方選が控えています。この児童会選挙を子どもの選挙と侮ることなかれ！大人の選挙に負けないものが、ここ北小にはあります。



北小では、日々こんなことを考えながら、教員一人ひとりの持ち味や個性を生かした授業を創り上げています。



.....

冬 間 近



季節は立冬(11/7)を過ぎ、今日、小雪(11/22)を迎えました。小雪とは、二十四節気という雪が降り始めるころのことです。まだ、積もるほど降らない時期であることから小雪といわれるようになったそうです。

「もう雪？」と思われがちですが、二十四節気は、今の暦とは若干ずれるところがあり、体感する気候とは合わない名称も多くあります。とはいえ、季節感を味わうには、趣深い言葉であることには変わりありません。

季節はいよいよ冬の気配へと移り変わってきました。これから、「大雪(12/7)」「冬至(12/22)」「大寒(1/20)」といった、冬を代表する名称を耳にすることが多くなります。年末を前に慌ただしい日々の中ではありますが、日本特有の四季折々(冬)の風情を感じたいものです。

近年は、温暖化の影響からか、真冬でさえ甲府盆地で雪を見ることはほとんどなくなりました。私が子どもの頃は、年に数回は必ずまとまった降雪があり、小さなかまくらや滑り台を作ったことを覚えています。とても楽しかった記憶です。しかし、子どもの頃にうれしかったはずの「雪」が、いつの間にか **苦** になってしまったのは、果たしていつの頃からなのでしょう。か。



富士山も冬の装い(11/21)

教師の持ち味が 生かされる授業

学びの秋。我々教員も研究を深めています。よりよい授業を、また子どもたちに分かりやすい授業を目指し、授業のあり方を日々考えています。

今月は3つの研究授業(1年2組、2年1組、5年2組)を校内で実施しました。わずか45分の授業ですが、子どもたちにとっては大切な45分。その45分は二度と返ってこない時間であるはず。それ故によりよい授業を目指し、1つの授業を練りに練ってお互いに学び合っています。



我々は授業を考える時、子どもたちの興味・関心・意欲に沿った教材を用意します。そして、教科書にある内容をそのまま教えるのではなく、日常生活と結びつけたり、子どもたちのワクワクする仕掛けをしたりと、あれこれ思いを巡らせます。子どもたちの「観たい」「知りたい」「やってみたい」をかき立てる授業ができれば最高です。

